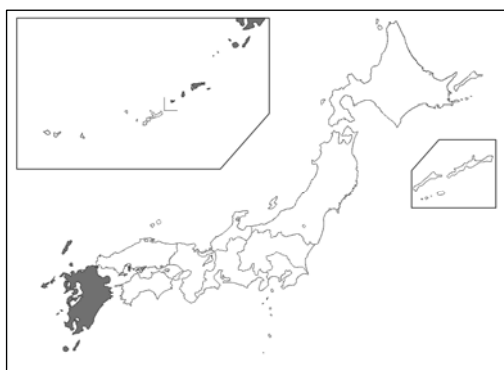


(10) 九 州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

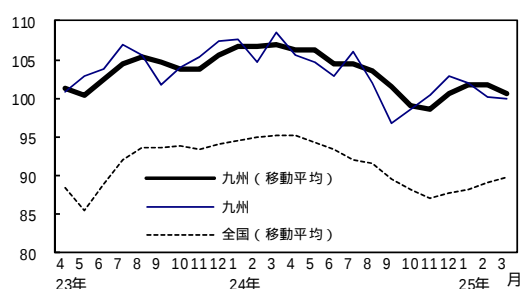
	前回 (平成 25 年 2 月)	今回 (平成 25 年 5 月)	
景況判断	下げ止まっている	持ち直しの動き	↑
鉱工業生産	持ち直しの動き	おおむね横ばい	↓
個人消費	おおむね横ばい	底堅く推移	↑
住宅建設	増加	大幅に増加	↑
雇用情勢	持ち直しに足踏み	厳しい状況にあるものの、改善の動き	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

1～3月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向けモス型計数回路(CCD)等が低調だったこと等から減少した。輸送機械は、海外向けの普通自動車が低調だったこと等から減少した。食料品・たばこは、ビール等が好調だったが、全体としては横ばいとなった。一般機械は、蒸気タービンや反応用機器が寄与したこと等から増加した。化学は、医薬品が低調だったこと等から減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	15.6	0.0	▲4.6	1.1	▲14.7	3.5
輸送機械	15.4	▲11.7	▲3.8	▲6.0	1.4	▲6.5
食料品・たばこ	10.6	4.9	0.0	▲2.9	3.8	0.1
一般機械	10.6	2.5	8.8	1.2	1.0	▲0.2
化学	8.2	7.6	▲2.8	2.7	▲4.2	8.4
鉱工業	100.0	▲0.9	0.0	▲0.9	▲1.9	▲0.1

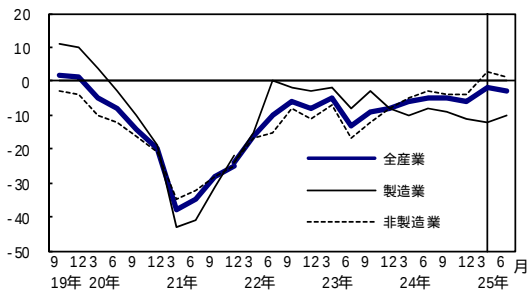
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

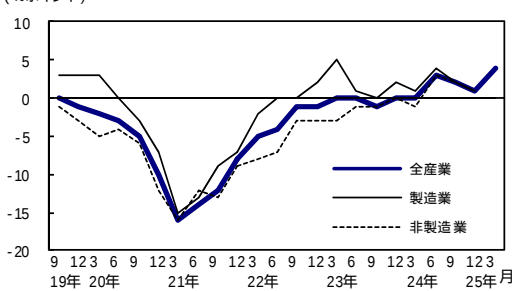
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



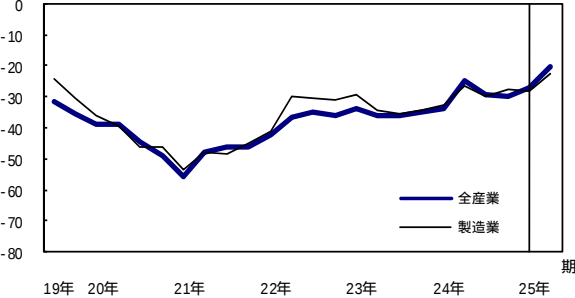
(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



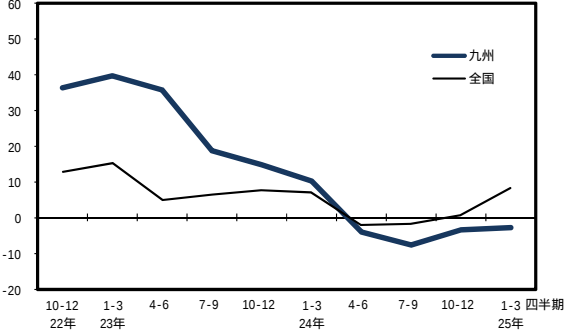
(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
九州 (含む沖縄) 地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (4 月) [企業動向関連 (現状)]

「市町村が発注する建設関係の調査・計画は、3月に補正予算が組まれた関係で、4月になって発注されている事業が少ない」(その他サービス業 [設計事務所]) などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費 (前年同期比) の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資 (3 月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績見込み	25年度見込み
全産業	5.2 (▲2.9)	▲2.8
製造業	6.3 (▲5.2)	▲10.4
非製造業	4.7 (▲1.7)	1.0

(備考) 1 . () は前回 (12 月) 調査比修正率。

2 . リース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

1月は前月比0.3%減、2月は同0.9%増、3月は同0.2%増となった。

大型小売店販売額

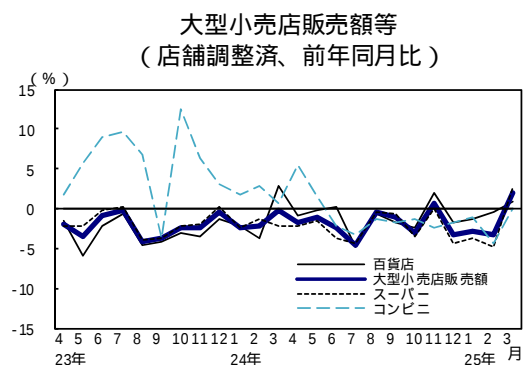
百貨店は、1月は、主力の衣料品が低調だったこと等から前年を下回った。2月は、飲食料品が低調だったことや前年より営業日数が減ったこと等から前年を下回った。3月は、気温高で春物衣料などの動きが良かったこと等から前年を上回った。

スーパーは、衣料品などの動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（4月）[家計動向関連（現状）]

九州地域の家計動向関連DIは、53.7となり前月より1.8ポイント低下した。

「決算が終わり極端に客の来店が少なくなった（乗用車販売店）」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



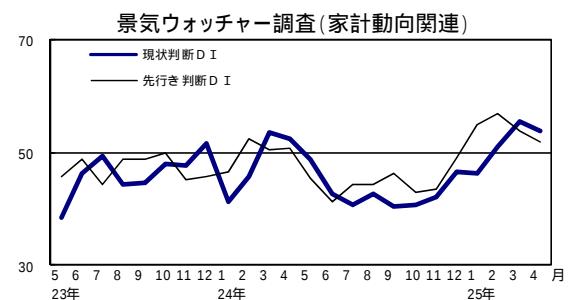
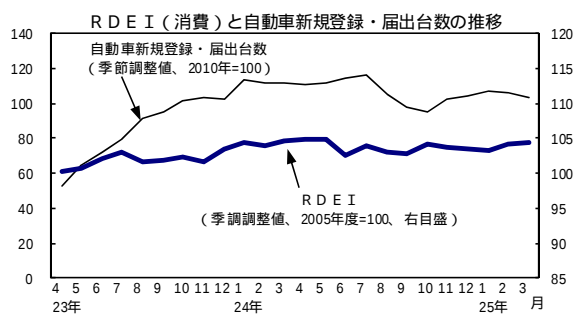
	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI（消費*1）	0.1	▲0.3	0.9	0.2
大型小売店(*2)	▲1.4	▲2.8	▲3.3	2.0
百貨店(*2)	▲0.3	▲1.3	▲0.4	0.9
スーパー(*2)	▲2.0	▲3.7	▲4.8	2.6
コンビニ(*2)	▲1.7	▲1.1	▲4.3	0.1
乗用車(*3)	▲7.0	▲4.5	▲6.9	▲8.5
(季節調整値)(*3)	4.7	2.2	▲0.8	▲2.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整済、前年同期(月)比(%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

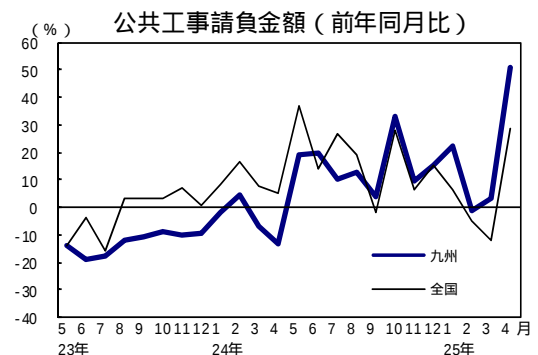
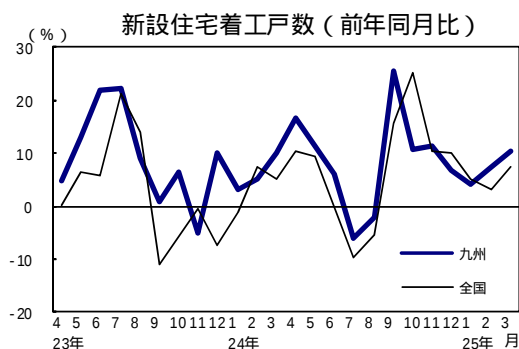
3. 乗用車は、新規登録・届出数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

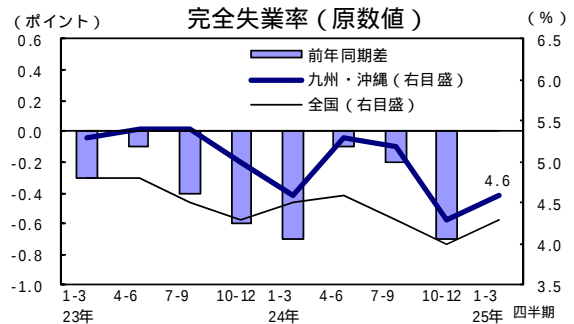
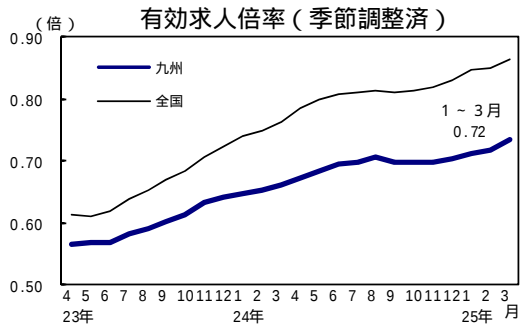
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。
有効求人倍率及び完全失業率等
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

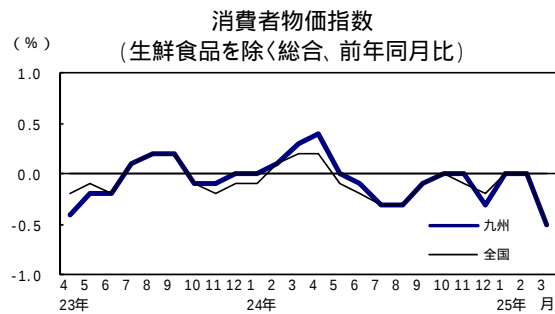
「実質雇用の現場で、求職者の囲い込みをするなど全般的な雇用増はないものの、株価浮揚による証券事務の増員や贈与税軽減の教育資金の取り込みによる信託銀行の増員は、既にある（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	198	197	211	162	56
(前年比)	1.5	▲10.5	1.0	▲23.9	▲15.2
負債総額	554	398	500	235	83
(前年比)	▲37.5	▲3.1	87.2	▲33.7	▲77.8



○ 景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 派遣に登録するスタッフも増えているなかで、正社員が決まったので、登録解除をしたいという方も増えている（人材派遣会社）

<先行き>

- 電気料金の値上げも来月から始まり、今後、燃料や資材、石油製品の高騰により商品の値上げも考えられるので、今後、景気の状態は良くならない（スーパー）

